



公益社団法人 企業メセナ協議会

東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド



企業メセナ協議会

108-0014 東京都港区芝5-3-2

アイセ芝ビル 8階

phone 03-5439-4520 facsimile 03-5439-4521

www.mecenat.or.jp

2012- No. 04 2012年6月8日

GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド) 第6回助成活動を決定

公益社団法人企業メセナ協議会(東京都港区芝5-3-2 アイセ芝ビル8階、理事長:福地茂雄[アサヒグループホールディングス株式会社相談役])は、このたび GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)の第6回助成選考委員会を行い、新たに37活動を採択(一覧は次頁に掲載)、総額1,435万円を助成することを決定しました。これにより、3月23日のGBFund開設以来の寄付総額は7,374万4,238円(6月7日現在)、助成総数は126件、助成総額は6,316万4,449円となりました。

過去最高の申請数 4割は被災地から

申請総数は過去最高の215件で、そのうち岩手・宮城・福島県ほか、被災地からの応募は計95件と全体の44%を占めました。芸術分野別では、音楽52件、美術46件、郷土芸能26件で、これら3分野で全体の57%となっています。

「百祭復興プロジェクト」は17件採択 継続的な取り組み、海外の活動も採択

採択された37活動のうち、「百祭復興プロジェクト(以下、百祭復興)」枠での採択は17件、その他の分野は20件です。「百祭復興」では、津波で流失した祭具を揃えて神楽や獅子舞を復活し、地域の再興をめざす活動が目立ちます。そのほか、被災地の郷土芸能団体が被災地以外の太鼓グループと交流するプロジェクトもあります。福島県にみられるのは、住民の結びつきを強め、地域固有の文化を次世代へつなごうとする動きです。浪江地区の団体は、避難で離れ離れになってしまった人々の絆を再確認すべく盆踊りを開催します。いわき市では、長く伝わってきた芸能を次世代へ残すため、震災前に撮影された獅子舞の映像を、再取材を加えて編集します。震災以降簡素化されている祭りの、本来の姿を継承していくためです。これら百祭復興案件を含め、被災地を拠点とする団体の活動は25件で、全体の67%でした。一方、百祭復興以外の活動も多様で、美術8件、演劇4件、文化財保護や歴史的建造物の保存4件、音楽は1件です。若手アーティストが東北を出発して、日本列島を縦断し各地の思いをつなぐ試みや、流され傷ついた写真を、インターネットを駆使して市民参加型で修復するなど、アートらしいユニークな視点で活動を展開します。また今回初めて海外での活動が採択されました。被災地の現状を写真と葉を通じてドイツのまちへ伝えるプロジェクトで、その様子はサイトを通じて世界に発信されます。

なお採択が2回目となる活動は4件、3回目は1件で、GBFundでは継続的な活動も支援していきます。

継続的な寄付、チャリティー募金も多数

ファンド創設後現在までの寄付総件数は300件、寄付総額は7374万4238円となりました。うち個人の寄付は52%、企業・団体は48%です。海外からの寄付のほか、毎月の寄付や複数回の寄付、チャリティープログラムの募金なども多く、継続的な寄付によりGBFundの助成活動が支えられています。

■GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)

GBFund(ジービーファンド、G:芸術、B:文化、F:復興/ファンド)は、2011年3月23日に企業メセナ協議会が立ち上げた芸術・文化による復興支援ファンド。趣旨に賛同くださった寄付者とともに、設立より5年間、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動を支援する。次回選考は2012年11月を予定。

■百祭復興プロジェクト

百祭復興(ひやくさいふっこう)プロジェクトは、GBFundのなかで郷土芸能や祭りを重点支援する目的で2012年3月に設置された助成枠。

【本件に関するお問合せ先】

公益社団法人企業メセナ協議会 広報担当:箕輪 / GBFund 担当:山吹

〒108-0014 港区芝5-3-2 アイセ芝ビル8階 TEL:03-5439-4520 FAX:03-5439-4521

URL: <http://www.mecenat.or.jp> E-mail: mecenat@mecenat.or.jp

第5回助成活動一覧（※活動内容の詳細については別添書類を参照）	
活動名	実施者・団体（所在地）
 相川南部神楽復興プロジェクト	相川南部神楽保存会（宮城県）
 天照御祖神社大祭神輿修理事業	花露辺社人組合(賛人会)（岩手県）
 網地浜熊野神社例大祭・網地浜獅子舞奉納	網地浜獅子舞保存会（宮城県）
演劇「震災タクシー」とリーディング「瓦礫と菓子パン ～リストランテ震災篇」いわき連続上演	特定非営利活動法人 Wunder ground（福島県）
 「大室南部神楽保存会」再開及び伝承	大室南部神楽保存会（宮城県）
 大島神社秋季祭典	磯草虎舞保存会（宮城県）
がんばろう石巻！応援コンサートII 音楽アウトリーチ事業	財団法人石巻市文化スポーツ振興公社（宮城県）
 釜石まつり(尾崎神社祭典)	南部藩寿松院年行司支配太神楽（岩手県）
 釜谷長面尾崎法印神楽の保存活動	釜谷長面尾崎法印神楽保存会（宮城県）
風の布・パピヨン	風の布・パピヨン（京都府）
 久慈備前太鼓の保存保護継承活動	久慈備前太鼓（岩手県）
「Shared Lines」展	仙台クライストチャーチ実行委員会（宮城県）
 下高久地区「獅子舞」映像化プロジェクト	TSUMUGU プロジェクト実行委員会（福島県）
 次世代による「戸倉長清水鳥囃子」復興プロジェクト	戸倉長清水鳥囃子保存会（宮城県）
震災で倒壊した土蔵再生と地域の文化復興拠点づくり	里山フィールドパーク実行委員会（東京都）
そこにあることばー東北のいまを記録し伝えるー	小森はるか+瀬尾なつみ（岩手県）
地歌舞伎「一谷嫩軍記」気仙沼公演	一谷嫩軍記 気仙沼公演実行委員会（埼玉県）
 つなぐ響き 気仙沼～柏崎	越後柏崎 日本海太鼓（新潟県）
津波で損なわれた写真の修復活動	フォトサルベージの輪（千葉県）
デイリリーアートサーカス2012	デイリリーアートサーカス2012 事務局（山梨県）
 虎舞継承活動のための山車製作	平田青虎会（岩手県）
 長塩谷南部神楽復興プロジェクト	長塩谷南部神楽保存会（宮城県）
 箱崎まつり・箱崎虎舞復興プロジェクト	箱崎虎舞保存会（岩手県）
 東松島市大曲浜 復興獅子舞プロジェクト	大曲浜獅子舞保存会（宮城県）
被災地の再生にむけた民間歴史資料救出・修復プロジェクト	歴史資料ネットワーク（兵庫県）

PRAY + LIFE～ふくしまの声	PRAY + LIFE (pray for a future + life is coming back) (福島県)
舞台芸術専門講座 ウォーキング ARC>T	Art Revival Connection TOHOKU (宮城県)
「2011.3.11 平成の大津波と博物館」シンポジウム	公益財団法人岩手県文化振興事業団 (岩手県)
 盆踊りによる絆の再生と伝統文化の次世代継承事業	特定非営利活動法人まちづくりNPO 新町なみえ (福島県)
女川常夜灯	対話工房 (宮城県)
森のアート海のゲイジツ in TOHOKU	ARTS for HOPE (東京都)
 本吉法印神楽復興プロジェクト	本吉法印神楽会 (宮城県)
「Referendum-国民投票プロジェクト」再演 東北ツアー	Port B (埼玉県)
第6回やっぺし祭り	やっぺし祭り実行委員会 (東京都)
陸前高田市立博物館所蔵の被災民俗文化財再生のための保存修復活動	昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科文化財学研究室 (東京都)
RAINBOW JAPAN 2012	遠藤一郎 RAINBOW JAPAN プロジェクト2012 実行委員会 (東京都)
分かち合うこと、想いやることー未来のための今ー(2) 東日本大震災葉プロジェクト Sharing as Caring: Presence for the Future (2)	ハイデルベルガー・クンストファーライン (ドイツ)

 百祭復興プロジェクト採択活動 : 17 件

GBFund

東日本大震災
芸術・文化による
復興支援ファンド

企業メセナ協議会

百祭復興

■公益社団法人企業メセナ協議会

企業によるメセナ(芸術文化支援)活動の活性化を目的に1990年2月に発足した公益法人。企業メセナへの意欲を高め、メセナや芸術文化に対する社会の理解を深めるため、1.促進・普及、2.情報集配・仲介、3.調査・研究、4.顕彰、5.協力・連携、6.助成等を行う。日本で唯一のメセナ専門の中間支援組織。会長:福原義春(株)資生堂名誉会長、理事長:福地茂雄(アサヒグループホールディングス[株]相談役)。正会員136社・団体、準会員37団体(2012年4月現在)。

公益社団法人企業メセナ協議会 第6回 GBFund(芸術・文化による復興支援ファンド)選考委員会 概要

開催日程: 2012年5月28日(月)

選考委員: 片山正夫(セゾン文化財団常務理事)、加藤種男(企業メセナ協議会専務理事)
俵木悟(成城大学文芸学部文化史学科准教授)、船曳建夫(文化人類学者)
吉本光宏(ニッセイ基礎研究所主席研究員・芸術文化プロジェクト室長)

採択件数: 37件、助成総額:1,435万円

第6回 GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)助成活動一覧

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
<p>祭</p> <p>相川南部神楽復興プロジェクト 相川南部神楽保存会(宮城県) 2013年1月4日以降 相川生活センター(集会所)(宮城県)</p>	<p>地域住民に親しまれていた相川南部神楽は、道具一式を集会所に保管していたが、津波により建物ごと流失。住民も仮設住宅入居により離散し、現在は活動休止状態である。これまで後継者育成の中心的存在だった若い世代が、「神楽を演じるために」「見るために」地元へ戻るきっかけとすべく、諸道具を整備して2013年1月から練習を始め、地元の活力を生み出したい。</p>
<p>祭</p> <p>天照御祖神社大祭神輿修理事業 花露辺社人組合(賛人会)(岩手県) 2012年5月～10月末 花露辺町内(岩手県)</p>	<p>約300年の歴史がある唐丹町鎮守の天照御祖神社では、3年毎に大名行列(釜石まつり)が開催されるが、開催年に震災が発生し用具や衣装が流失。住民も仮設住宅入居で離れ離れとなり、開催が困難となった。次回3年後の復興大祭開催をめざし、損傷の激しい神輿を修復して唐丹地区における復興のきっかけとし、集落のコミュニティー再生へつなげていく。</p>
<p>祭</p> <p>網地浜熊野神社例大祭・網地浜獅子舞奉納 網地浜獅子舞保存会(宮城県) 2012年から毎年 年間を通し1回、定期3回と不定期回数(各催し行事、個人祝い事等) 網地島島内全域(宮城県)</p>	<p>保存会が拠点を置く網地島は大震災震源地に最も近く、大きな被害を受けた。震災前は島民総出の秋祭りがあり、本土へ働きに出ている若者たちが戻ってきて大漁祈願をしたが、震災により神輿・獅子頭が損傷し中止となった。太鼓や神輿、装束を揃え獅子舞を再び奉納し例大祭を開催することで、過疎化が進む島の伝統を後世に伝える。島民を前向きにし、かつての活気あふれる網地島を取り戻したい。</p>
<p>演劇「震災タクシー」とリーディング「瓦礫と菓子パン～レストランテ震災篇」いわき連続上演 特定非営利活動法人 Wunder ground(福島県) 2012年11月18日、2012年12月16日 いわき芸術文化交流館アリオス小劇場、カンティナーネ(福島県)</p>	<p>福島へ向かう途中に大震災に遭遇し、刻々と変化する被害状況をラジオで聞きながらいわき市入りした劇作家くらもちひろゆき。彼が震災当日からの避難所における食事の記録を丹念に調べて戯曲化した「瓦礫とパン～レストランテ震災篇」をいわき市の俳優をキャストイングしてリーディング上演し、その後パネルトークを行う。本公演を、震災の記憶をそれぞれの形で表現し、後世に伝える意義を住民が考えるきっかけとする。</p>
<p>祭</p> <p>「大室南部神楽保存会」再開及び伝承 大室南部神楽保存会(宮城県) 2012年10月中旬以降 宮城県石巻市北上町十三浜字大室</p>	<p>震災ですべての道具を流失した大室南部神楽保存会。多くの若者を指導してきた指導者も、いまだ行方不明である。住民の地域離れも深刻な状況だが、後継者である若い世代が中心となり保存会再建に取り組み始めた。まずは太鼓や神楽面、衣装を揃え、「また戻ろう」「またがんばろう」という気持ちで、秋祭りを目標に活動を再開する。</p>
<p>祭</p> <p>大島神社秋季祭典 磯草虎舞保存会(宮城県) 2012年9月15日 気仙沼市大島地区(宮城県)</p>	<p>小中高生を中心に太鼓を演奏し、虎舞を舞う磯草虎舞保存会。大島神社の秋季祭典神輿渡御に巡行し虎舞を奉納してきたが、震災により太鼓などの道具を流失した。震災後は離島者もあり、会員は3分の1に激減している。100年以上前から伝わる郷土芸能を継承すべく、小太鼓などを揃え、祭典に奉納することを目標とする。</p>

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
<p>がんばろう石巻！応援コンサートⅡ 音楽アウトリーチ事業</p> <p>財団法人石巻市文化スポーツ振興公社(宮城県)</p> <p>2012年6月～11月</p> <p>石巻市内小学校、中学校、高等学校、幼稚園、及び施設や企業(宮城県)</p>	<p>昨年度は学校や仮設住宅集会所などで75回のコンサート事業を展開した。今年も児童や生徒、仮設住宅入居者のための無料コンサートを実施する。震災で甚大な被害があった石巻市では芸術文化活動の環境が十分ではなく、いまだ文化事業の開催や市民による文化活動の実施がままならない。当活動を一過性のもので終わらせず、継続的かつきめ細やかに実施することで、芸術文化に触れる機会を市民に多く提供する。</p>
<p>釜石まつり(尾崎神社祭典)</p> <p>南部藩寿松院年行司支配太神楽(岩手県)</p> <p>2012年10月20日～21日</p> <p>尾崎神社から市内中心地への渡御、釜石湾を曳船する海上渡御(岩手県)</p>	<p>元禄12年より祭典の守護職として先達・露払いを務めてきたが、震災で多くの道具を流失。昨年GBFund助成で絆纏を揃えることができたが、太神楽のシンボルである山車と提灯はまだ修復できていない。2012年10月の釜石まつりにむけてそれらを整備し、震災前のように祭典へ参加することが悲願である。地域住民に勇気を与え、地域の復興再生の一助となるよう、取り組む。</p>
<p>釜谷長面尾崎法印神楽の保存活動</p> <p>釜谷長面尾崎法印神楽保存会(宮城県)</p> <p>2012年10月21日</p> <p>石巻市小船越川前仮設住宅集会所、他(宮城県)</p>	<p>大津波で甚大な被害を受けた宮城県石巻市長面地区。全住民の約2割にあたる100余名の死者・行方不明者を出した。400年近い歴史を持つ同地の法印神楽も衣装や舞台が流失し、例祭を見送る考えもあったが、近隣の神楽保存会から道具を借り、2011年秋に仮設住宅集会所で舞を披露した。2012年は衣装を揃えて公演することで、仮設で暮らす方々の疲れを癒し、地域を勇気づけたい。</p>
<p>風の布・パピヨン</p> <p>風の布・パピヨン(京都府)</p> <p>2012年5月～2013年3月</p> <p>釜石祥雲支援学校・宮古恵風支援学校・久慈拓陽支援学校・気仙光陵支援学校・共同作業所、他(岩手県・宮城県)</p>	<p>25年にわたり、屋外で一枚の布をみんなで染める「野染」とAIDSキルトの活動を実施してきた。三陸沿岸の仮設住宅や保育園などで野染を行い、色留めをした布を地域住民がわけ合う。また野染した布に一匹の蝶を縫いつけて、震災により失われた人や動植物・風景を偲ぶ喪の時間とする。皆で染めること、縫うことを通じて、記憶し、出会い、話を重ねる時間と場所を提供し、心のケアをはかる。</p>
<p>久慈備前太鼓の保存保護継承活動</p> <p>久慈備前太鼓(岩手県)</p> <p>2012年7月～9月</p> <p>主に岩手県北地方(岩手県)</p>	<p>青森県南部から岩手県北部にかけての地域、および秋田県の一部に伝わる盆踊りをナニヤドヤラという。久慈備前太鼓はその保護と継承のため1993年に設立し、創作太鼓を組み合わせた演奏も行ってきたが、大震災の津波で稽古場の建物、太鼓やバチなどすべてが流失した。必要な用具を買い揃えることで、地域の行事に一日も早く復帰し、地元の復興の礎となることをめざす。</p>
<p>「Shared Lines」展</p> <p>仙台クライストチャーチ実行委員会(宮城県)</p> <p>2012年6月22日～27日</p> <p>せんだいメディアテーク、ビルドスペース(宮城県)</p>	<p>2011年に自然災害による大きな被害を受けたニュージーランドのクライストチャーチと宮城県仙台市。その経験を共有するアーティストたちが共同で展覧会を開催する。座談会も開催し、両市のアーティストが表現の可能性や、アーティストが担う芸術文化の発信について語り合う。同時期に同様の震災体験をした両国のアーティストがともにメッセージを発信することで、震災で失われた被災地の表現の場を再構築し、持続的な国際交流関係を築く。</p>

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 5px;">祭</div> <div> 下高久地区「獅子舞」映像化プロジェクト TSUMUGU プロジェクト実行委員会(福島県) 2012年7月～2013年2月 いわき市平下高久地区(福島県) </div> </div>	福島県いわき市下高久地区では、秋の祭礼で獅子舞を奉納し五穀豊穡を願ってきた。大震災以降簡素化されているその祭りを、震災前の2010年、カメラマン佐藤文郎と大原真介、スタジオ解放区の林僚児が密着撮影していた。人々の演舞が記録されたその映像を、追加取材を加えて編集・発信することで、祭りの記憶と地域の絆をつないでいく。
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 5px;">祭</div> <div> 次世代による「戸倉長清水鳥囃子」復興プロジェクト 戸倉長清水鳥囃子保存会(宮城県) 2012年11月3日前後(戸倉中学校文化祭) 戸倉中学校、戸倉長清水地区(宮城県) </div> </div>	起源は定かではないが、宮城県南三陸町の長清水地区には「鳥追い」という行事が伝わった。旧正月の15日の前夜から明け方にかけて、子どもたちや若者が各戸をまわる祭りで、少子化のため衰退しかけたが、20年ほど前から同地区の中学生を対象に伝承が始まった。大津波ですべての道具が流されたが、被災した方々を励まそうとバチを手づくりして舞を披露。獅子頭を揃えるなどして活動を本格化し、復興への気持ちを高めていく。
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 5px;">祭</div> <div> 震災で倒壊した土蔵再生と地域の文化復興拠点づくり 里山フィールドパーク実行委員会(東京都) 2012年4月～2012年12月(第1期) 十日町市松之山坪野集落(新潟県) </div> </div>	2011年3月12日の新潟県境地震により、坪野地区の築100年の木骨土蔵が損壊した。当活動では地域住民と全国から公募するボランティアが、左官や大工職人など専門家によるワークショップを通じて土蔵を再生する。また修復調査中に偶然発見された獅子頭と新たに制作する衣装により、長らく舞うことができなかつた集落の獅子舞も復活させる。土蔵再生を契機に、里山に残る人々の文化・祭事・生活文化資源の役割と活用方法を考察する場をつくりだす。
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 5px;">祭</div> <div> そこにあることばー東北のいまを記録し伝えるー 小森はるか+瀬尾なつみ(岩手県) 2012年4月1日～2013年3月31日 気仙郡住田町を拠点に気仙地域(陸前高田市、大船渡市、住田町)(岩手県) </div> </div>	震災後いち早く現地に入り、地域住民に寄り添いながら写真・映像・スケッチ・テキストなどを用い独自の記録活動を続けてきた小森はるか+瀬尾なつみ。2012年4月からは岩手県に移住し、地域住民の日常の中にある会話・しぐさ・景色の変化を丁寧かつ長期的に記録する。同時に活動報告会や冊子制作、ウェブサイト設置など発信作業にも取り組む。
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 5px;">祭</div> <div> 地歌舞伎「一谷嫩軍記」気仙沼公演 一谷嫩軍記 気仙沼公演実行委員会(埼玉県) 2012年6月23日～24日 気仙沼市民会館大ホール(宮城県) </div> </div>	気仙沼には源平の戦いで名を馳せた埼玉県熊谷出身の武将熊谷二郎直実の子孫が多く暮らす。こうした縁で震災後、熊谷市民有志が気仙沼を訪れた。その際「直実公が登場する歌舞伎を見たい」との声があがり、埼玉県の「熊谷歌舞伎の会」と「小鹿野歌舞伎保存会」が出演する地歌舞伎公演を気仙沼で開催することとなった。震災犠牲者の菩提を弔うとともに、市民が未曾有の大災害から立ち上がり、力の糧となるよう精一杯演じる。
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 5px;">祭</div> <div> つなぐ響き 気仙沼～柏崎 越後柏崎日本海太鼓(新潟県) 2012年10月28日 柏崎市文化会館アルフォーレ(新潟県) </div> </div>	大震災後、新潟県柏崎市の日本海太鼓は宮城県気仙沼市へ渡り、被災した大島の太鼓団体「磯草虎舞保存会」と「崎浜美和太鼓」と交流を始めた。2012年2月には3つの太鼓団体が競演する演奏会を大島で開催したところ、太鼓団体のみならず住民から喜びの声があがった。同年10月に今度は柏崎へ大島の2団体を招待して演奏会を開催することで、被災した人々を励まし、大島の活力を取り戻す一助としたい。

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
津波で損なわれた写真の修復活動 フォトサルベージの輪(千葉県) 2011年4月20日～2013年3月末(予定) 名取市・岩沼市を中心に、被災地全域(宮城県)、市川市(千葉県)	震災・津波で損傷した写真を持ち主から直接預かり、デジタル化、専用ウェブサイトを通じて全国のボランティアが修復作業を行う。よみがえった写真は印刷して持ち主に返却する。インターネットを活用することで、被災地に行けない人でも在宅でボランティア活動を行うことができる。1枚の写真にこめられた物語と「色褪せない思い出」をよみがえらせ、被災者の心のケアをめざす。
デイリリーアートサーカス2012 デイリリーアートサーカス2012事務局(山梨県) 2012年9月10日～10月1日 岩手、青森、宮城、福島、茨城、兵庫、京都、愛知、神奈川、東京、埼玉、など	アーティスト開発好明による東日本大震災復興支援プロジェクト。2011年は義援金を集めて東北に向い、被災地域の小中学校や避難所をまわって、<触る><感じる>を無料で体験できるアート活動を展開した。2012年はトラックにアート作品を詰め込み、日本列島を東から西へ移動しながら展覧会を行う。東日本を出発して日本を縦断することで、人とまちをつなげていく。
虎舞継承活動のための山車製作 平田青虎会(岩手県) 2012年6月～2013年5月 岩手県釜石市市内	祭事に使用する山車をはじめ、道具の一切が大津波で流され、長く続いてきた虎舞も継承が困難となった。その後、各所からの支援で備品の購入と山車の製作は実現できたものの、山車を収納する小屋は大きく破損したままで、山車は雨ざらしの状態が続いている。山車を雨風から守るため、応急処置ではあるが塗装処理をして、伝統芸能の継承に努める。
長塩谷南部神楽復興プロジェクト 長塩谷南部神楽保存会(宮城県) 2013年1月以降 練習実施場所:しらさぎ台コミュニティーセンター(予定)、所在地:石巻市須江字しらさぎ台(宮城県)	大正末期から地域の人々に親しまれた南部神楽だが、津波によりすべてを流失。会員の命も奪われ、存続の危機に直面するも、残された会員や亡くなった会員の家族の特に若い世代が、地域が愛した神楽を存続させたいと願い活動再開に踏み切った。いまは残された資料をもとに練習を重ねるが、早く道具や衣装を揃えて、地域全体で協力しながら次世代へ継承していく。
箱崎まつり・箱崎虎舞復興プロジェクト 箱崎虎舞保存会(岩手県) 2012年10月第3土・日曜日(釜石まつり)、2013年4月5日(箱崎地区例祭) 箱崎神社(岩手県)	岩手県釜石市箱崎町では、航海の安全と大漁を祈願する虎舞が人々の心の支えであった。しかし大津波で高台の住宅をのぞいたほとんどの住宅が流失し、被災者が仮設住宅へ転居したため、地域コミュニティーの保持が困難となり、虎舞も存続の危機に直面している。流された衣装や道具を揃えて虎舞を復活することで、漁業を中心とした活気ある集落を取り戻す。
東松島市大曲浜 復興獅子舞プロジェクト 大曲浜獅子舞保存会(宮城県) 2012年5月～2013年4月 東松島市内仮設住宅団地、福祉施設等(宮城県)	宮城県東松島市大曲浜地区の獅子舞は約350年前から伝わるとされる伝統芸能で、毎年正月に遠洋漁業に従事する保存会員が集まり家々をまわっていたが、大津波で神社に保管していた獅子頭や太鼓、笛、法被など祭具のすべてが流失し、住民にも多くの犠牲者が出た。住民の生きる希望、心の支えとなるよう獅子舞を復活させ、後継者の育成にも取り組んでいく。

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
被災地の再生にむけた民間歴史資料救出・修復プロジェクト 歴史資料ネットワーク(兵庫県) 2012年7月1日～2013年3月31日 宮城資料ネット事務局(宮城県)、茨城史料ネット事務局(茨城県)など	家族のアルバムや日記帳、古文書や民具、自治会文書など民間の歴史資料は地域固有の文化資源であり、救出再生されることが強く求められている。昨年の GBFund 助成により、宮城資料ネットに一時保管された被災資料の洗浄・修復ができた。しかし震災1年を経て継続的に作業する人員と保管場所の確保、内陸部の損壊した家屋に残された歴史資料の廃棄散逸が新たな課題である。専門的知識・技術を持ったボランティアが引き続き活動を強化するとともに、公的なケアが手薄な地域へ重点展開していく。
PRAY + LIFE～ふくしまの声 PRAY + LIFE (pray for a future + life is coming back) (福島県) 通年(2012年5月27日～2013年5月) インタビュー:いわき市を中心とした福島県内外 座談会:いわき市内(福島県)・全国各地	福島在住のアーティスト藤城光が、震災にかかわる体験を聞きとり、文章化した物語を、「ふくしまの声」としてウェブサイトに掲載し、冊子を制作して発行する。また座談会やトークイベントも開催する。震災や放射能のことを容易に口にできない中、話すこと、文章を読んで共感することを通じて、個々が抱える気持ちの負担を軽減し、心のケアへとつなげたい。
舞台芸術専門講座 ウォーキング ARC>T Art Revival Connection TOHOKU(宮城県) 2012年5月28日～2013年3月31日 せんだい演劇工房 10-BOX(宮城県)	東北地方で芸術文化活動を志す人たちを対象とした舞台芸術専門講座を開催する。第一線で活躍する人たちを講師に迎え、ともに学び考える場をつくり出すことで、東北の舞台芸術のあり方や改善点を認識する機会とし、また一般市民、特に若い世代へ広く参加を呼びかけて、人材育成をはかる。震災で一次停滞した東北の舞台芸術の活性化へとつなげていく。
「2011.3.11 平成の大津波と博物館」シンポジウム 公益財団法人岩手県文化振興事業団 2013年2月10日～11日 岩手県律博物館講堂(岩手県)	東北地方沿岸部の博物館施設および文化財等資料も大津波で深刻な被害を受けた。当面は生活再建が最優先だが、今後は地域の文化を支えてきた博物館施設の復旧も不可欠となる。沿岸部博物館施設の復旧状況を報告する基調講演と、各県の博物館・文化財関係者による議論を行うシンポジウムを開催することで、被災した博物館が抱える今後の課題や必要な支援を明確にし、地域の記憶を未来につなぐ文化財資料の重要性を再確認する。
盆踊りによる絆の再生と伝統文化の次世代継承事業 特定非営利活動法人まちづくりNPO 新町なみえ (福島県) 2012年6月～8月 福島市仮設住宅、二本松市仮設住宅、本宮市仮設住宅(福島県)	2006年、浪江地区で長らく途絶えていた権現堂の盆踊りが復活したが、大震災が起これ、原発事故によって避難を余儀なくされた。故郷への帰還の目処が立たず、復興への道筋も不透明な中で地域のつながりは失われつつあるが、盆踊りを開催することで避難住民同士の故郷への気持ちをつなぎとめ、絆を再確認する。いずれ故郷への帰還がかなった際に、郷土芸能を次世代へ継承できるよう活動を継続する。



活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
女川常夜灯 対話工房(宮城県) 2012年8月15日 女川おちゃっこ倶楽部、女川町復興商店街、女川町旧市街地(宮城県)	女川町は津波により大半の市街地が流失。道路の区切りと建物の基礎の跡から、震災前は多くの人々が生活を営んでいたことが想像できるが、夜になると暗く静まりかえる。津波に流された戸数分の小さな「焚き火」を、かつては建物があつた敷地に据える。荒涼とした土地にちらちらと灯る火を囲み眺めることで、過去を想い、今日の命に感謝し、明日を生きる力に変えていく。
森のアート海のゲイジュツ in TOHOKU ARTS for HOPE(東京都) 2012年7月24日～8月18日 岩手県立県南青少年の家(岩手県)または宮城県蔵王自然の家(宮城県)	昨年約130回のアートプログラムを被災地で実施してきた団体による、被災地の子どもを対象にしたアートキャンプ。夏休みを利用して子どもたちを招待し、自然豊かな環境でストレスを緩和させる。またアートワークショップによる表現活動で、心の安定や回復をはかる。自然を題材とするアーティストをナビゲーターにむかえて、作品制作をし、野外展覧会を実施する。
本吉法印神楽復興プロジェクト 本吉法印神楽会(宮城県) 2012年9月14日(上山八幡宮例祭)、2013年10月第3日曜日(戸倉神社例大祭)他 南三陸町内6神社(古峰、保呂羽、荒沢、荒島、上山八幡、戸倉の各神社)等(宮城県)	岩手、宮城県沿岸部の一地方に伝わる法印神楽のうち、宮城県南三陸町に拠点を置く本吉法印神楽は祖流の一つといわれている。その発祥の地とされる同町戸倉地区は大震災の大津波で甚大な被害を受け、神楽に関する資料・用具と神楽を奉納してきた戸倉神社の、本殿以外がすべて流失した。衣装や道具などを揃えて、以前のように各神社の例大祭で神楽を奉納することで、復興に向かって立ち上げる力を地域の人々へ与えたい。
「Referendum－国民投票プロジェクト」再演 東北ツアー Port B(埼玉県) 2012年8月20日～30日(予定) 相馬、南相馬、会津若松、郡山(福島県)、仙台、石巻、気仙沼(宮城県)、他	昨年 GBFund 助成により実現した移動型演劇プロジェクトを発展させた取り組み。福島・宮城の中学生に「いま一番ほしいものは何ですか？」などのインタビューを実施して、その映像をDVD化し、映像インスタレーションとしてキャラバンカー内に展示。鑑賞者はそれを自由に選んで再生することができる。また、中学生が受けた同じ質問に筆記で答え、投票することもできる。映像の鑑賞と投票行為により、人々の交流と対話の機会をつくり出す。
第6回やっぺし祭り やっぺし祭り実行委員会(東京都) 2012年7月7日 おおふなと夢商店街(岩手県)	2011年5月29日から不定期に開催されている、文化祭的アートイベントの第6回目。未来芸術家の遠藤一郎と大船渡出身の現代アートコレクターの石鍋博子が「なにか夢中になれるもの、心から楽しむ時間」を創出する必要性を感じたことから始めた。毎回多数のアーティストや芸術系大学、高校が参加し工作教室や絵画教室、書道展、ライブペインティングなどを実施する。「アーティストやアートワークが子どもを元気にする」を第一義に、今後も継続して活動していく。



活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
陸前高田市立博物館所蔵の被災民俗文化財再生のための保存修復活動 昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科文化財学研究室(東京都) 2012年6月～2013年3月 昭和女子大学歴史文化学科文化財学研究室(東京都)、陸前高田市立生小小学校、岩手県立博物館(岩手県)	壊滅的被害を受けた陸前高田市立博物館は、もともと気仙大工や漁業関連の民俗資料・古文書を数多く収集していたが、震災により一部流失、多くは長時間海水に浸り、塩分やヘドロにまみれるなど甚大な被害を被った。それらは、現在劣悪な保存状態のまま一時保管され、一刻も早い保存修復処理が必要とされる。そこで、事前研修を受けた作業者が現地で専門家とともに安定化処理を実施する。また現地で作業するボランティアと意見交換し、被災の実態ならびに博物館機能回復のための課題を共有する。
RAINBOW JAPAN 2012 遠藤一郎 RAINBOW JAPAN プロジェクト 2012 実行委員会(東京都) 2012年6月中旬～8月下旬 日本各地(沖縄、鹿児島、別府、道後、京都、舞鶴、名古屋、東京、石巻、大船渡、秋田、北海道まで各地をまわりながら開催)	「未来へ」と描かれた車で全国をまわり、各地の人々の夢を車体に描いてもらう活動を続ける遠藤一郎。大震災後は東北地方を走り、各地域の人たちの気持ちをつなげてきた。「RAINBOW JAPAN 2012」では、車にGPSロガーを設置し、通った道の軌跡で日本列島にメッセージを描く。沖縄を出発して九州、近畿、中部、東北、北海道をまわり、各地の人々の気持ちをつなぐ。未来への希望を見出し、地域の再生を願ってアクセルを踏む。
分かち合うこと、想いやることー未来のための今ー(2) 東日本大震災葉プロジェクト Sharing as Caring: Presense for the Future (2) ハイデルベルガー・クンストファーライン(ドイツ) 2013年3月15日～5月24日 ハイデルベルガー・クンストファーライン(Heidelberger Kunstverein)、ハイデルベルグ市内公共図書館、ハイデルベルグ大学図書館(ドイツ)	写真家港千尋が、震災以来被災地で撮影している写真を、葉にしてドイツハイデルベルグ市で市民に配布するアートプロジェクト。葉には写真の一部分が印刷されており、全体像プロジェクトのURLにアクセスして見ることができる。またURLから被災者へメッセージを送ることができ、ドイツ語、英語で書かれたメッセージは日本語訳してウェブサイトに掲載される。被災地の現状をドイツの人たちに知らせ、新たな対話の場を創出することで、大震災の記憶を伝えていく。